

# 予 算 要 求 資 料

令和 2 年度 9 月 補正予算 支出科目 款：農林水産業費 項：農地費 目：農村総合整備事業費

## 事業名 用排水路・河川落差解消支援事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農地整備課 総合整備係 電話番号：058-272-1111 (内 3187)

E-mail：[c11431@pref.gifu.lg.jp](mailto:c11431@pref.gifu.lg.jp)

### 1 補正要求額 4,000 千円 (現計予算額：10,000 千円)

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現計 予算額	10,000	0	0	0	0	0	10,000	0	0
補正 要求額	4,000	0	0	0	0	0	4,000	0	0
決定額	4,000	0	0	0	0	0	4,000	0	0

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

農村地域における水田と農業用排水路と接続する河川までの間、段差等の障害により、魚類の移動に必要な連続性が失われている。

このため、“緑豊かな「清流の国ぎふ」づくり”における施策の1つである“自然生態系の保全・再生”を推進するため、「水みちづくり」として河川～農業排水路～水田の面的な連続性を確保することで、生物多様性や本県の恵まれた水環境を保全する。

### (2) 事業内容

既存の水路内の落差 (段差) を解消し、本来の河川から水路上流まで魚が往来できる水みちの連続性を確保することで、生態系保全効果 (魚類種や魚類生息数の増加) を発現させるとともに、水田において環境配慮米として農業者メリットの発現を期待するもの。

- ・河川－農地における生態系ネットワーク解析技術の開発と事業効果の検証・・・1,772千円
- ・落差解消工事補助金・・・12,228千円（落差解消工 N＝3箇所）  
養老地区、可児地区、池田地区

■実施箇所の追加による増額補正

(3) 県負担・補助率の考え方

県：100%（森林環境税事業）

(4) 類似事業の有無

なし

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	4,000	落差解消に必要な工事費等を市町村等が行う経費
旅費	8	河川－農地における生態系ネットワーク解析技術の開発と事業効果の検証に伴う経費
需用費	13	
委託料	△21	
合計	4,000	

**決定額の考え方**

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

IV 美しい自然と環境を守る「清流の国」づくり

1 森・川・海をつなぐ清流とふるさとの自然を守る

美しい川・水・大気を守る

(4) 魅力ある農村づくり

## 県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

補助事業名	用排水路・河川落差解消支援事業費
補助事業者（団体）	市町村等 （理由）農業用排水路の管理者
補助事業の概要	（目的）面的な広がりを持った水みちの連続性を確保し、河川や水田に生息する魚類の繁殖、生息区間を再生する。 （内容）水みちの連続性確保に資する農業用排水路の落差解消を行う。
補助率・補助単価等	定額・定率・その他（例：人件費相当額） （内容）県：100% （理由）面的な広がりを持った水みちの連続性に資するため。
補助効果	落差解消により水みちの連続性が確保される。
終期の設定	終期令和3年度 （理由）清流の国ぎふ森林・環境基金事業の終期

### （事業目標）

- ・ 終期までに何をどのような状態にしたいのか  
農業用排水路にある落差を解消し、水みちの連続性を確保したい。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R元年度末)	目標 (R2年度末)	目標 (終期)
① 農業用排水路の落差解消数	1箇所	4箇所	5箇所
②			

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度 (要求)
補助金交付実績	千円	2,615千円	2,359千円	1,451千円	(要求額) 14,000千円
指標①目標		1箇所	1箇所	1箇所	4箇所
指標①実績		(推計値) 0箇所	(推計値) 1箇所	(推計値) 1箇所	
指標①達成率	%	(推計値) 0%	(推計値) 20%	(推計値) 20%	%
指標②目標					
指標②実績					
指標②達成率	%	%	%	%	%

(前年度の成果)

R元年度において、3地区で推進部会（県関係機関・市町村・地元組織等）を開催し、連続性の支障となる落差の解消に向けた会議を行った。  
また、農業用排水路の魚類調査、落差部の調査や落差解消を実施した地区での効果検証を行った。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項  
水みちの連続性確保に必要となる落差（段差）解消に係る関連事業の連携は今後も必要となるため、継続的な取り組みが必要とされる。また魚類等の生物多様性を確認するため、生態系ネットワークの解析技術を要する。

(事業の評価)

・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い      △：必要性が低い	
(評価) ○	自然生態系の保全・再生を推進するため、「水みちづくり」の必要性は高い。また本事業によって既存の水路内の落差（段差）を解消することで、本来の河川から水路上流まで魚が往来できる水みちの連続性を確保し、魚類の絶滅リスクの軽減や生息個体数の増加が期待される。
・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	水みちの連続性確保のための取組が活性化され、地域一体となった落差解消に向けた整備が期待されている。
・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている      △：向上の余地がある	
(評価) ○	本事業により生物多様性や本県の恵まれた水環境の保全が期待される。

(事業の見直し検討)

--

(終期到来時の翌年度以降の事業方針)

**継続**・削減・統合・廃止  
(理由) 終期到来時の翌年度以降も、引き続き水みちの連続性確保の取り組みを継続させ、河川や水田に生息する魚類の繁殖、生息区間を保全していく必要がある。